

イエス、歌う

シリーズ～新イエス～

2025/9/14

イエスが「賛美」した記録

① 五千人給食の奇跡

「イエスは五つのパンと二匹の魚を取り、天を仰いで
賛美の祈りを唱え、パンを裂いて…」(マルコ6:41)

② 四千人給食の奇跡

「小さい魚が少しあったので、**賛美の祈りを唱えて**、
それも配るようにと…」(8:7)

③ 最後の晩餐(過越祭)

「一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、
賛美の祈りを唱えて、それを裂き…」(14:22)

④ 過越祭の最後

「一同は**賛美の歌をうたって**から、オリーブ山へ出
かけた。」(14:26)

①～③について

・「賛美の祈りを唱え」について

- ・原語では“ユーロゲオー”：「祝福する」「ほめたたえる」「賛美する」「感謝する」などの意
- ・口語訳・新改訳では「祝福し」
- ・新改訳2017では「(神を)ほめたたえ」
- ・英語訳では“give thanks”(感謝する)

・食前の祈り(祝福)をささげたので「歌った」とは考えにくい

- ・イエスは備えられたわずかなパンと魚を感謝し、神をほめたたえて祈ったところ、偉大な奇跡が起こった！

④について

•「一同は賛美の歌をうたって」

- 原語では“フムネオー”（英語のhymnの語源）
- 過越祭の最後に歌うのが詩編136篇で「大ハレル」と呼ばれてい！

• 詩編136篇

イエスが歌った賛美！

恵み深い主に感謝せよ。慈しみはとこしえに。
神の中の神に感謝せよ。慈しみはとこしえに。
主の中の主に感謝せよ。慈しみはとこしえに。

＜最後の26節まで繰り返される↑＞

- “**キレオラム ハスド**”：原文には「なぜなら」を意味する“**キ**”が付いている

「慈しみはとこしえに」

•ゲツセマネに向かう前の賛美

- 「一同は賛美の歌をうたってから、オリーブ山へ出かけた。」
- イエスはゲツセマネでの祈りの格闘に向かった
- 「アッバ、父よ、あなたは何でもおできになります。この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしが願うことではなく、御心に適うことが行われますように。」(14:36)

•「慈しみ」と訳されている言葉は「愛」や「優しさ」とも訳される

- イエスは父の愛にすがりながら祈られた

慈しみはとこしえに



“キレオラム ハスト”